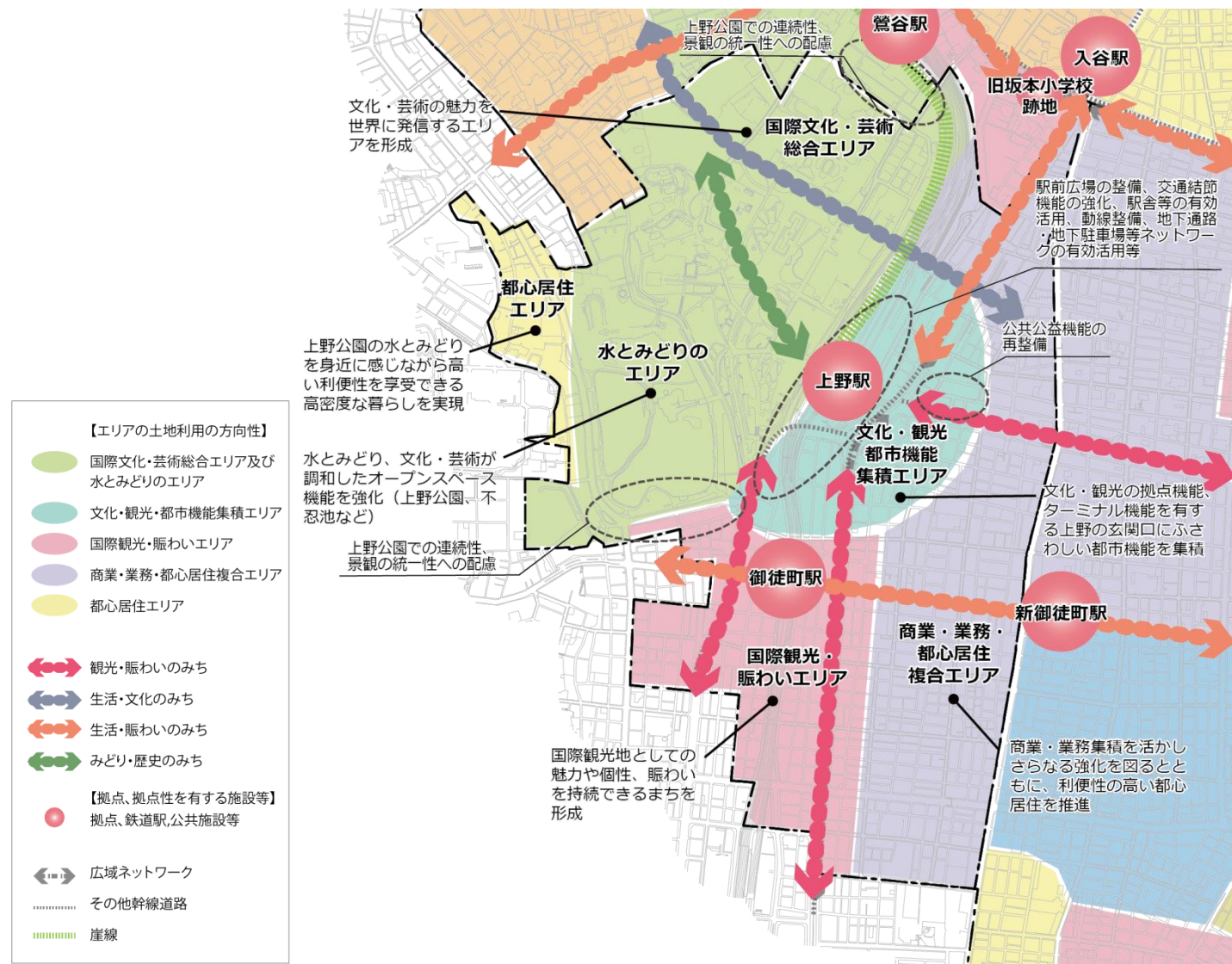


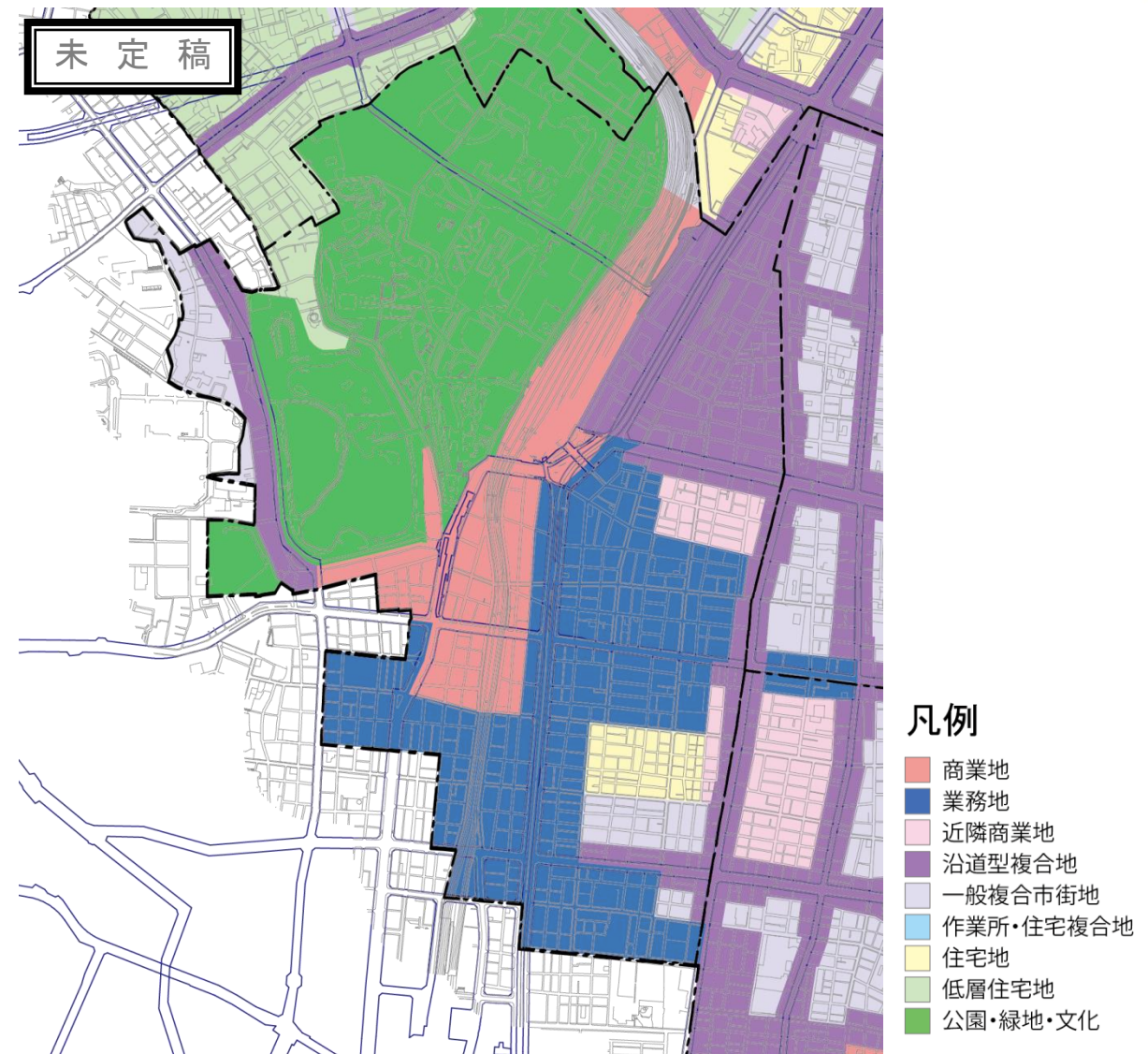
第5章：地域別まちづくり方針（概要版）

1 上野地域

■まちづくり方針図



■土地利用方針図



歴史と未来を結び、世界中から人びとが集いいきかうまち

■地域別まちづくり方針の骨子

(1) 国際競争力強化を有する文化交流発信拠点の形成	①上野公園及び一帯における拠点と景観の形成 ②上野駅周辺における機能強化
(2) 上野駅周辺をはじめとする地域内外の回遊性と連携の向上	①上野公園周辺での歩行者ネットワークの形成 ②周辺エリアとの回遊性向上 ③だれもが安全で快適に移動できるまちづくりの推進
(3) 駅前空間の再整備・有効活用	①上野駅の駅前空間の活用 ②御徒町駅の駅前空間の活用
(4) 防災性の高いまちづくり	①帰宅困難者対応と避難動線の整備 ②防災活動拠点の充実と地域の持続性向上 ③建物の更新の誘導等による防災性の向上
(5) 都心居住の促進と商店街の活性化	①都心居住の促進 ②近隣商店街の活性化

■これまでの策定委員会での主な意見

分野	意見
土地利用	都内の他拠点のような価値観ではなく、上野らしい全く違う価値観で新しい方向性を目指すべき。
	上野駅の駅舎を歴史的建造物として、理想的には東京駅のように、保存していくべきと考えている。
	文化施設が集積している上野公園をもっと活用する必要がある。
防災	上野公園の文化施設利用者が帰りに落ち着く環境整備（散策、買物、お茶など）ができるといい。上野公園から坂を下りたエリアでの、まちのホスピタリティが感じられる空間演出は特に重要。
	防災面では、築30年以上の建物や空き家が多いことから対策が必要。
道路・交通	御徒町東側では、道路の快適性の阻害要因への対策強化が必要。
	上野公園の文化施設を訪れる人の回遊性の向上を目指している。
	谷根千や鶯谷・根岸方面からのアクセス向上も含め、総合的に回遊性を高める必要がある。回遊性向上のためには、地域全体の商業的魅力と歩行者空間の両方の視点を考慮する必要がある。

■上野地域まちづくり方針（全文案）

歴史と未来を結び、世界中から人びとが集いいきかうまち



（１）国際競争力強化に資する文化交流発信拠点の形成

①上野公園及び一帯における拠点と景観の形成

- 上野公園周辺は、古くからの歴史や世界的な芸術・文化施設の集積を活かし、上野「文化の杜」新構想をふまえて、日本文化の魅力を世界に発信できる国際的な文化交流発信拠点を形成する。
- 上野公園一帯は、国際的な文化交流発信拠点到資する質的な向上を図り、水とみどり文化・芸術が調和したオープンスペースとしての機能を強化する。
- 国立西洋美術館周辺の環境保全に努め、世界遺産の風格が感じられる景観を形成する。

②上野駅周辺における機能強化

- 上野公園の歴史・文化等を背景にした商業・業務集積地では、上野駅周辺や主要な幹線道路沿道を中心に高度利用を図り、日本の国際競争力強化に資する拠点を形成する。文化が薫る街並みの形成により快適な商業・業務空間を整備し、他地域のビジネスゾーンとは異なる上野らしい拠点機能の集積を図る。
- 上野公園周辺エリアの歴史的資源や神社等と結びついたみどりの保存を図るとともに、周辺の幹線道路の沿道や建物の屋上緑化、壁面緑化等によりみどりを創出し、上野公園とまちなかの一体化を図る。
- 上野駅から御徒町駅、秋葉原にかけては、アメ横やジュエリー街などの商店街の活性化を図るとともに、秋葉原駅周辺からの波及効果を活かし、多様な商業と産業の複合ゾーンを形成する。
- 東上野エリアについては、公共公益機能の再整備、老朽化した建築物の更新を推進する。
- 昭和通りにより分断されたまちに連続性を持たせ、まちの魅力を向上し、さらに浅草等の周辺地域にも波及させる。

（２）地域内外の回遊性と連携の向上

①上野公園周辺での歩行者ネットワークの形成

- 上野駅周辺の商業集積地では、上野公園との連続性、景観の統一性に配慮した歩行者ネットワークの整備、地下通路・地下駐車場等のネットワークの有効活用を図るとともに、歴史や自然、芸術・文化を感じながら、観光や買物ができる空間を形成する。

②周辺エリアとの回遊性向上

- 浅草通り、中央通りをシンボルロードとして緑化や修景などによる良好な景観を形成し、まちのうらおいと賑わいを感じながら歩ける空間として整備し、浅草、秋葉原との回遊性の向上を図る。特にかっぱ橋本通りやその周辺では、上野から浅草に至る賑わいの連続性を高める街並み景観や空間づくりを推進する。
- 御徒町、秋葉原との連携を図り、その波及効果を活かしながら、既存建物のコンバージョンを図ることにより、上野の歴史と未来指向のIT産業が調和した地域づくりを推進する。
- 上野公園との連続性を考慮し、谷中地域、根岸・入谷地域など、広域での回遊性を向上する。

③だれもが安全で快適に移動できるまちづくりの推進

- 「台東区バリアフリー基本構想（H24.3）」に基づき、だれもが安全で快適に移動できるまちづくりを推進する。
- 歩行者ネットワークを形成する道路は、歩行者と自転車の分離を図り、歩行者、自転車双方の快適性・安全性に配慮する。
- 優先整備路線である都市計画道路の整備を進め、歩車にとって快適な道路整備を進める。

（３）駅前空間の有効活用

①上野駅の駅前空間の活用

- 歴史を感じさせる駅本屋を活用した風格ある駅前広場を整備し、交通機能の集約・乗り換え機能の改善などにより、交通結節機能を強化するとともに、既存駅舎、鉄道敷地などの有効活用についても検討する。
- 上野公園とまちをつなぐ歩行者ネットワークの再編・充実、地下空間の活用等により、わかりやすい動線整備を行う。

②御徒町駅の駅前空間の活用

- 御徒町駅周辺は、安全な歩行者空間の確保を促進し、ジュエリー街をはじめとした商業集積としての魅力向上や買物に訪れやすい都市空間を形成する。
- パンダ広場の有効活用により、にぎわいの創出を図る。

（４）防災性の高いまちづくり

①帰宅困難者対応と避難動線の整備

- 上野駅周辺では、一時退避場所、一時滞在施設等の確保や来街者への適切な情報提供による帰宅困難者対策を推進する。
- 海外からの観光客や外国人居住者向けの防災情報の多言語発信を行う。
- 広域避難場所への分かりやすい避難動線を整備する。

②防災活動拠点の充実と地域の持続性向上

- 防災センター機能を充実し、業務集積地における災害時エネルギー確保について検討する。
- 災害時にもまちの主要機能や中核となる事業が継続できるまちづくりを推進する。

③建物の更新の誘導等による防災性の向上

- 旧耐震建物等の更新を誘導する。
- 特に幹線道路沿いの不燃化・耐震化を促進する。
- 中小規模の事務所ビルは、リノベーション等によりストックの有効活用を図り、災害時における安全性を確保する。
- 建物の密集の解消、不燃化・耐震化、地区内備蓄等のライフラインの構築を進め、地区内残留地区の拡大を図り、総合的な防災性の向上を図る。

（５）都心居住の促進と商店街の活性化

①都心居住の促進

- 商業・業務機能の集積を活かした職住近接の推進、質の高いサービスアパートメントの立地などにより、都心居住の促進を図る。

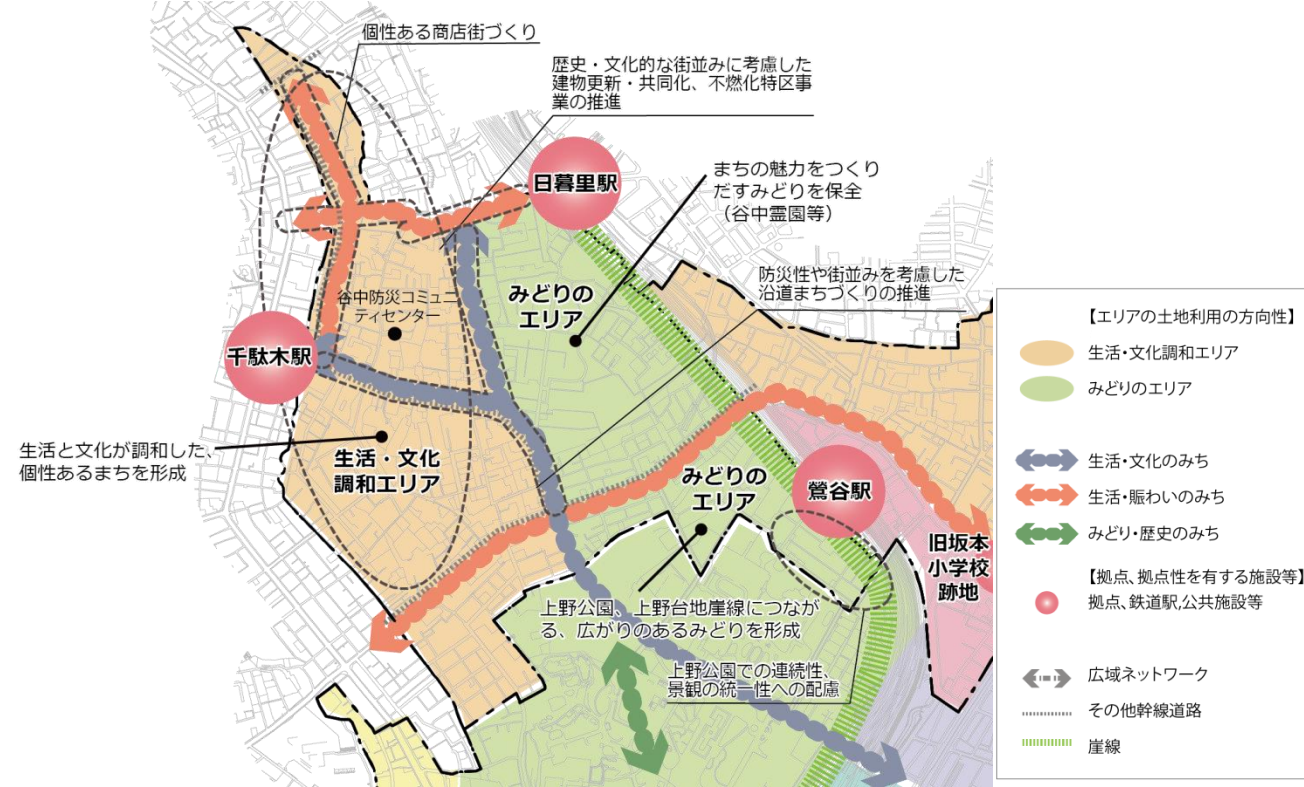
②近隣商店街の活性化

- 地域のニーズの変化に対応した近隣商店街の再生により、商店街の活性化を図る。

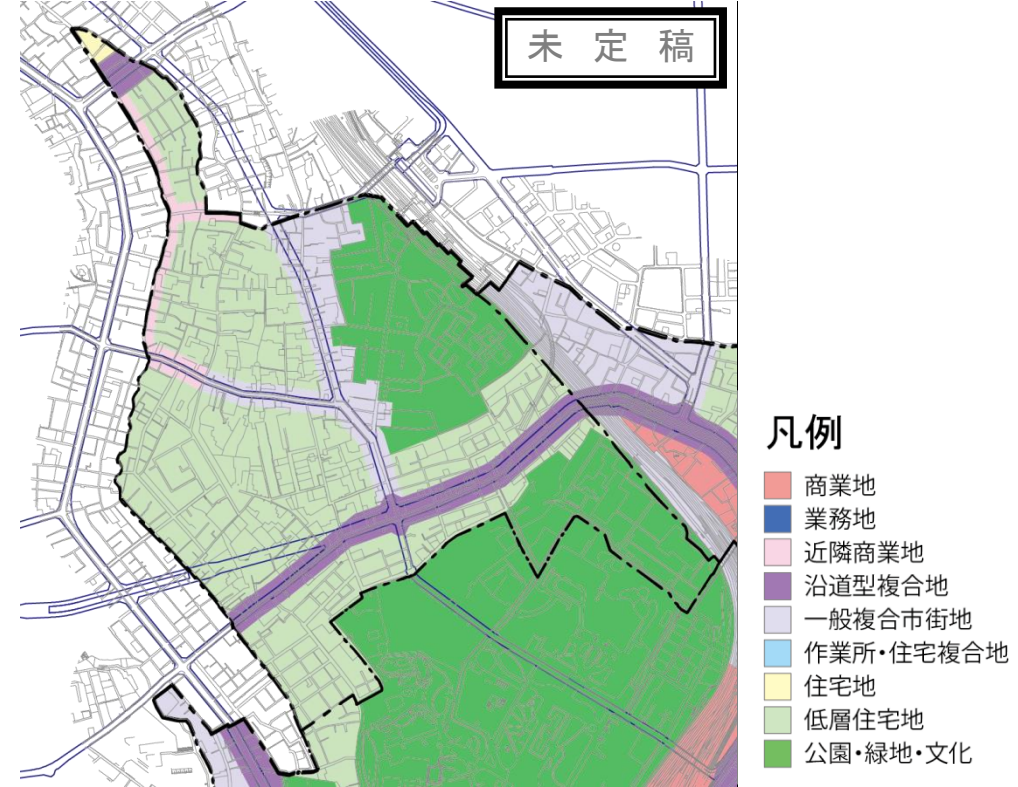
2 谷中地域



■まちづくり方針方針図



■土地利用方針図



歴史・みどりを引き継いだ生活・文化を大切にすまち

■地域別まちづくり方針の骨子

(1) 歴史・文化・自然の中で人びとが交流する生活・文化調和ゾーンの形成	①生活・文化調和ゾーンの形成
(2) 地域の歴史を考えた防災性の高いまちづくりの推進	①建物の更新等による防災性の向上 ②道路整備とあわせた防災性の向上
(3) 広い空と豊かなみどりを感じることができる地形を活かした景観誘導	①景観や眺望を考慮したまちづくりの推進 ②みどりの保全と緑化の推進
(4) 住み続けられるための多様な住まいの維持・保全	①良質な居住環境の維持 ②多様な住まいの維持・保全・活用
(5) 歩いて暮らす谷中の特性を考慮した道路整備	①歩行者中心のまちづくりの推進 ②歩行者ネットワークの形成

■これまでの策定委員会での主な意見

分野	意見
土地利用	池之端三丁目は谷中地区まちづくり協議会に入っているため、できれば上野地域ではなく、谷中地域に入れてほしい。池之端は小学校区等から考えても上野とは異質である。
生活・住宅	補助第92号線が撤廃され、規制が外れ高い建物が可能になってしまうことが懸念される。優良で残すべき建物とそうでないものを選別したほうがよい。
文化・産業・観光	文化が根付いている地域として、根津や千駄木は非常に大事な地域であり、上野公園にアクセスする経路として整備が必要である。歴史や文化を残しながら、地域の特性をどのように引き出すかがキーポイント。 谷中地域の「個性ある商店街の環境整備による、まち歩き観光への対応」に、「商店及び商店街」と入れてもらいたい。
防災	できるだけ今のまちの姿を変えずに、インフラ整備し安心安全なまちにしたい。 密集事業と、今のまちの姿を守ることの兼ね合いにアイデアが必要。 消防活動困難区域を解消する必要がある。 防災面で、身近な生活道路を残したいという要望と相反するところは、二項道路をすべて広げる必要はなく、拠点をつくってホースや貯水槽等の設備的なもので補いたい。

■谷中地域まちづくり方針（全文案）

歴史・みどりを引き継いだ生活・文化を大切にするまち



（１）歴史・文化・自然の中で人びとが交流する生活・文化拠点の形成

①生活・文化拠点の形成

- 歴史、文化、みどりの資産と商店街、路地、坂などの特色を活かし、個性ある生活スタイルを支える生活・文化拠点を形成する。
- 谷中銀座商店街、よみせ通りは、個性ある商店街として環境整備を進め、まち歩き観光への対応を図る。

（２）地域の歴史を考えた防災性の高いまちづくりの推進

①建物の更新等による防災性の向上

- 防災上の課題をかかえている地区では、歴史・文化的な情緒を失わない建て方にも配慮しながら建物の更新や共同化、不燃化特区事業による集中的な整備を進める。
- まちの防災性向上に資するオープンスペースの確保を図る。
- 敷地の細分化防止及び最低敷地面積の設定等により、新たな密集地の抑制を図る。

②道路整備とあわせた防災性の向上

- 路地空間等の趣ある街並みを保全しながら、必要に応じて防災活動空間確保を目的とした道路の拡幅整備や、沿道での建替え等とあわせた一体的な道路整備・オープンスペース確保に取り組み、防災性を向上する。

（３）広い空と豊かなみどりを感じることができる地形を活かした景観誘導

①景観や眺望を考慮したまちづくりの推進

- 中高層化を許容するゾーンと低層の街並みを守るゾーンを区分するなど、景観・眺望を考慮したまちづくりを地域住民とともに検討する。
- 良好な眺望の場所を眺望ポイントとしてポケットパーク等を整備し、周辺の建物の高さ制限等をあわせて検討する。
- 道路付帯施設や沿道建物等における色彩や照明、デザインなど、沿道空間が一体となった落ち着きと魅力のある景観を形成する。

②みどりの保全と緑化の推進

- 谷中霊園や既存の公園については、まちの魅力をつくりだすみどりとして保全を図る。
- 寺町の風情や歴史を育む空間として、寺社や民地内の樹林（保護樹木制度の活用）、上野台地崖線のみどりの保全・創出を図る。
- 既存のみどりの保全にあわせ、沿道緑化を推進する。

（４）住み続けられるための多様な住まいの維持・保全

①良質な居住環境の維持

- みどりや路地空間の残る低層の土地利用を基本とした良質な居住環境を維持する。
- 住環境に配慮しつつ小規模の生活利便施設の立地を誘導する。

②多様な住まいの維持・保全・活用

- 様々な世代が住む、住みやすい、住み続けられる多様な住宅の維持・保全・活用を図る。
- 防災生向上を前提としたリノベーションによる若年層の流入を図るとともに、高齢者が住み続けられ

るまちを目指す。

（５）歩いて暮らす谷中の特性を考慮した道路整備

①歩行者中心のまちづくりの推進

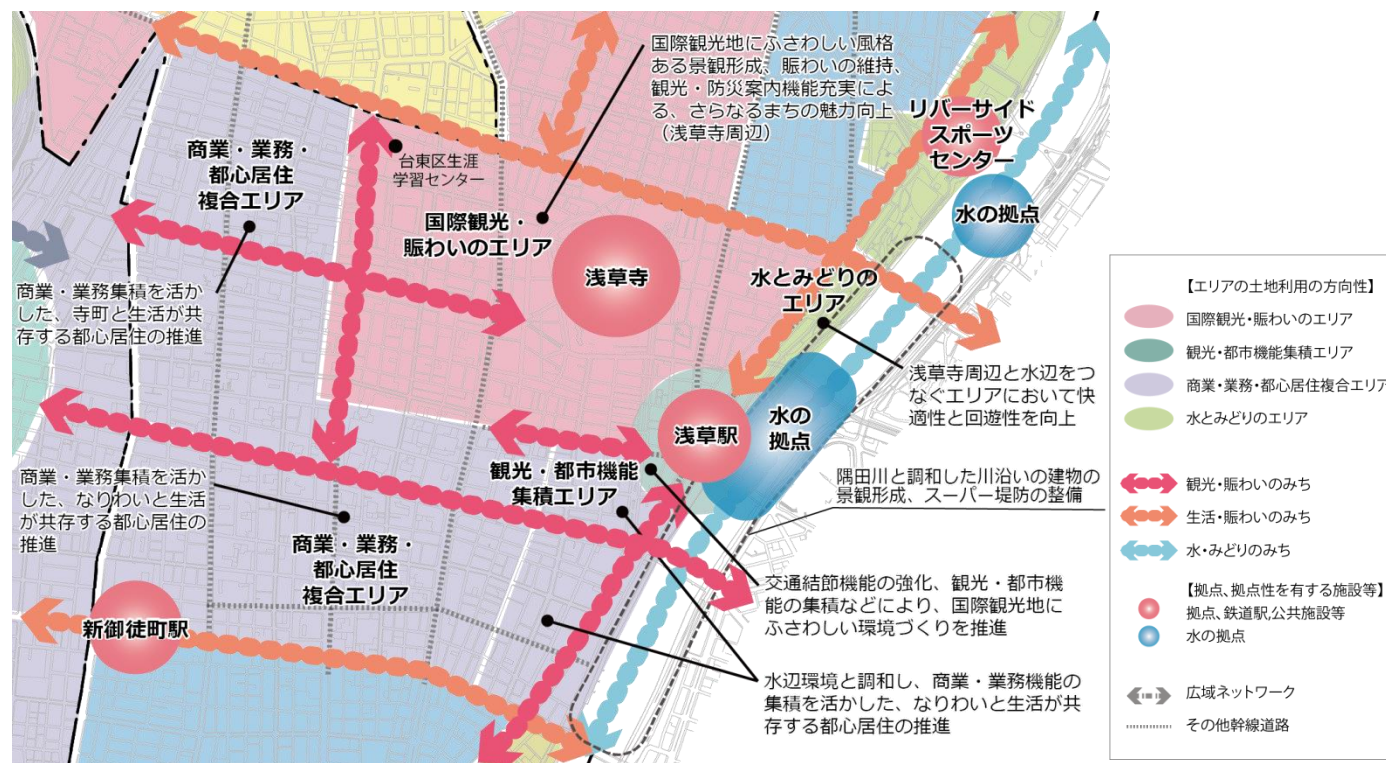
- 都市計画の廃止の方向性が示された補助 92 号線、補助 172 号線を含む周辺地区では、防災性や街並みを考慮したまちづくりを進める。
- 自動車通過交通の進入防止、車両の速度低減方策等により、住民、観光客が安心して歩け行動できる歩行者主体の道路づくりを進める。

②歩行者ネットワークの形成

- 快適で歩きたくなる歩行空間を形成するとともに、地域内に多い寺社のみどりや歴史ある文化資源を結ぶ歩行者ネットワークを形成し、人びとの交流促進を図る。
- 隣接区の根津、千駄木、日暮里等と上野公園を結びつける地域として、隣接地域との歩行者ネットワークや街並みを整備する。

3 浅草・中部地域

■まちづくり方針方針図



■土地利用方針図



歴史・文化を育み新たな賑わいを創造するまち

■地域別まちづくり方針の骨子

(1) 国際観光地浅草にふさわしいまちづくりの推進	①国際観光拠点の形成 ②国際観光地にふさわしい環境整備 ③周辺地域との連携
(2) 伝統ある文化を活かした活気と賑わいのある商業空間の整備	①商業集積と商店街の賑わい創出 ②商業空間の魅力向上に資する環境整備
(3) 歴史・文化にふれ賑わいが広がる歩行者空間の形成	①歩行者空間の形成 ②賑わいの周辺地域への波及
(4) 隅田川を基調とした景観形成と親水性の向上	①隅田川の親水性の向上 ②隅田川と調和したまちづくりの推進 ③対岸地域とのまちづくりの連携
(5) 江戸の風情を感じる街並みの形成	①歴史・文化資源を活かした街並みの形成 ②地域住民との連携による良好な景観形成
(6) 観光や商業、居住等の機能が共存したまちづくりの推進	①機能が共存した活力あるまちづくりの推進

■これまでの策定委員会での主な意見

分野	意見
土地利用	上野、浅草の拠点性の向上が、他地区の活性化に波及するかについては疑問。
	浅草と中部地域という広い範囲が対象となり、地域の特色が異なるので、細分化していかないといけない。
景観	重点地区の浅草寺に広がりを持たせて、境内からの眺望も考えた方がよい。
	浅草寺周辺の景観や高さの規制については、土地活用の問題もあり、浅草寺の周りだけにすると、バランスをとらないといけない。
道路・交通	上野～浅草間は無理に回遊性向上しなくてもいい。上野公園を中心とした周辺地域との回遊性の向上が現実的である。
	上野～浅草間も合羽橋周辺は回遊性が向上した。間のエリアの魅力が高めると、回遊性の向上も図られる。
	最大の問題は観光バス。最近では無許可でルールを守らない小型バスも着く。
	浅草周辺のバリアフリー化が課題。3駅のつながりを改善したい。 放置自転車が課題。駐輪場をつくっても、利用されにくいところにある。

■浅草・中部地域まちづくり方針（全文案）

歴史・文化を育み新たな賑わいを創造するまち



（1）国際観光地浅草にふさわしいまちづくりの推進

①国際観光拠点の形成

- 歴史と観光資源、商業地の活力、隅田川の水辺空間等を活かした国際観光拠点の形成を図る。
- 景観や眺望に配慮したメリハリのある建物形態を検討し、国際観光拠点にふさわしい風格ある景観形成を進める。
- 隅田川の舟運の充実、新たなルートの設定を検討する。

②国際観光地にふさわしい環境整備

- 東武浅草駅のターミナル性向上、交通広場の整備、メトロ浅草駅と都営浅草駅を結ぶコンコース整備、バリアフリー化などにより、乗り換え利便性の向上、交通結節機能の充実を図る。
- 多言語案内・誘導サインの統一などの観光案内や Wifi 整備の充実を図るとともに、一時滞在施設の充実など観光客・来街者を対象とした災害対策を推進する。
- 団体観光客用のバス対策を総合的に推進する。

③周辺地域との連携

- 隅田川対岸の押上・業平橋駅周辺、吾妻橋周辺まちづくりと連携を図る。

（2）伝統ある文化を活かした活気と賑わいのある商業空間の整備

①商業集積と商店街の賑わい創出

- 仲見世、かっぱ橋道具街、靴・はきもの問屋街等の個性的な商店街の商業集積を図るとともに、商店街の賑わいの連続性を確保する。

②商業空間の魅力向上に資する環境整備

- 祭りや行事が開催される通りや広場の景観づくりを進め、祭りや行事とまちづくりが一体となった活動促進を図る。
- 駐車需要に対応した駐車場や自転車等駐車場を整備し、商業地における荷捌きのルールづくりについて検討する。

（3）歴史・文化にふれ賑わいが広がる歩行者空間の形成

①歩行者空間の形成

- 駅、浅草寺周辺、隅田川、隅田公園、商店街等を歩いて回遊できる歩行者ネットワークの形成、ポケットパークの設置等による、歩行者空間の充実を図る。
- 浅草通り、かっぱ橋本通りは、上野公園周辺と浅草寺・隅田川を結び、賑わいの連続性を高める歩行者主体の空間形成を図る。

②賑わいの周辺地域への波及

- 浅草・中部地域の賑わいを周辺地域（北部地域等）に広げる歩行者空間の充実を図る。

（4）隅田川を基調とした景観形成と親水性の向上

①隅田川の親水性の向上

- 親水テラス及び浅草東参道二天門等防災船着場の活用、規制緩和を用いた水辺空間の活用などにより、水辺空間の賑わい創出及び魅力向上を図り、既存観光地とつながる賑わいの連続性を確保する。

②隅田川と調和したまちづくりの推進

- 隅田川と調和した川沿いの建物の景観形成を図り、川からの眺望の確保、川を意識した建物の建て方を誘導する。
- 地域と連携したスーパー堤防の整備により、広域的な防災性向上を図る。

③対岸地域とのまちづくりの連携

- 墨田区など対岸地域とのまちづくりの連携を図り、一体性のある空間を整備する。

（5）江戸の風情を感じる街並みの形成

①歴史・文化資源を活かした街並みの形成

- 浅草寺・浅草駅周辺は、歴史・文化を感じられる街並みを形成するとともに、浅草寺の景観・眺望を考慮したスカイラインを形成する。
- 雷門、花川戸等では、歴史・文化資源や寺社等のみどり、街並みを活かし、風情のある住環境を整備する。

②地域住民との連携による良好な景観形成

- 幹線道路沿いは、地区計画や景観協定等により街並みの統一やまちの連続性を確保し、地域の顔となる景観を形成する。
- 中高層化を許容するゾーンと街並みを守るゾーンを区分するなど、景観・眺望を考慮したまちづくりを地域住民とともに検討していく。

（6）観光や商業、居住等の機能が共存したまちづくりの推進

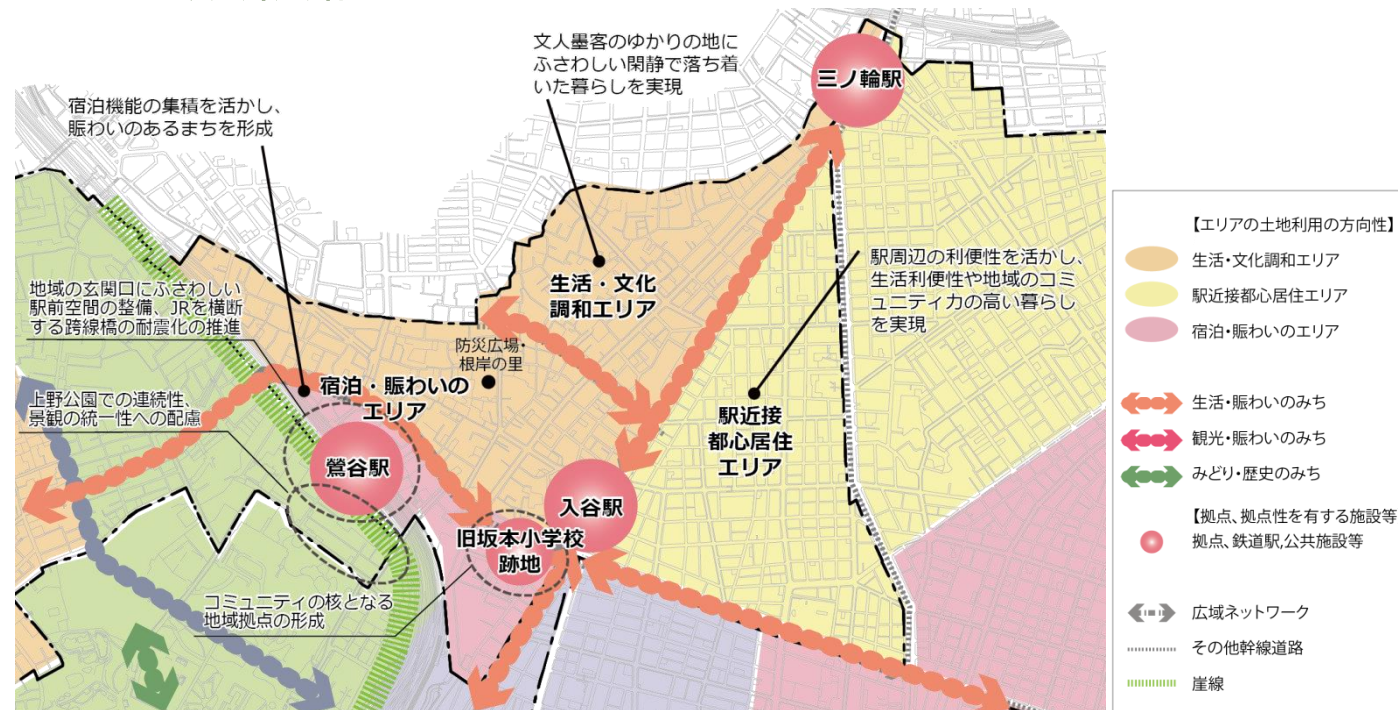
①機能が共存した活力あるまちづくりの推進

- 浅草通りや春日通りなど地域の東西を結ぶ幹線道路沿いやかっぱ橋道具街では、商業や店舗、住宅などの複合地として中・高層の土地利用を図り、地域の活力を支えるまちづくりを推進する。
- 国際観光拠点となる浅草寺・浅草駅周辺や幹線道路沿い以外の地域では、快適で生活利便性の高い住環境を形成し、職住近接を推進する。

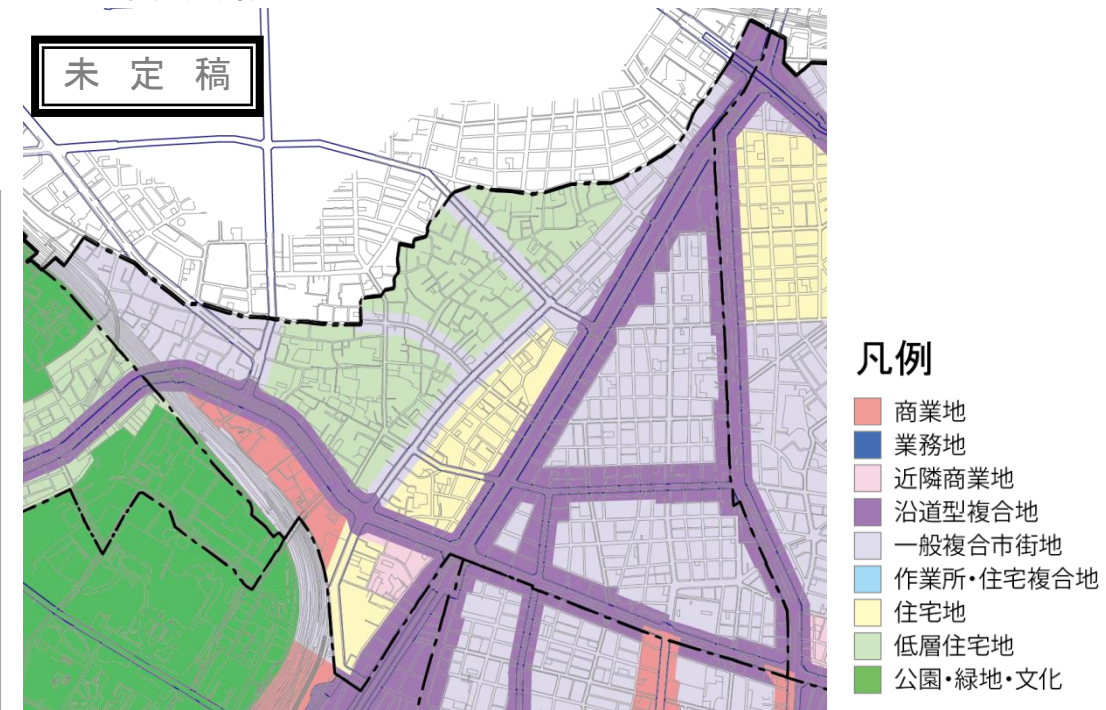


4 根岸・入谷地域

■まちづくり方針方針図



■土地利用方針図



文人墨客ゆかりの風情を感じながら暮らせるまち

■地域別まちづくり方針の骨子

(1) 閑静で落ち着いた生活圏とそれを支える地域拠点の形成	①閑静で落ち着いた生活圏の形成 ②コミュニティの核となる地域拠点の形成
(2) 文人墨客ゆかりの地を巡る歩行者空間の整備とみどりの創出	①歩行者空間の整備とみどりの創出
(3) 住宅の不燃化、耐震化の促進とおちついた風情の維持を両立する災害に強いまちの形成	①地域の防災性向上 ②治水対策の推進
(4) 上野台地崖線を活かした鶯谷駅周辺の整備	①鶯谷駅の駅前空間整備 ②鶯谷駅周辺の環境整備
(5) 歴史・文化・商業を活かした入谷駅周辺、三ノ輪駅周辺の整備	①入谷駅周辺の整備 ②三ノ輪駅周辺の整備 ③主要幹線道路沿いの整備

■これまでの策定委員会での主な意見

分野	意見
土地利用	昭和通りを渡った入谷は、震災復興の区画整理により街路整備され、目立った特徴はなく中間的な部分となっている。 鶯谷駅周辺の整備が長年の大きな課題だが、一歩進めるような方向を都市マスのなかでふれておけないか。
生活・住宅	歴史的な地域は景観を配慮してなるべく高い建物は建てないほうがよいが、普通の住宅地は建ててもよい地域もある。棲み分けが必要である。 根岸では、まちの雰囲気を残したいという意向はあるが、谷中ほどの結束はなく、新しく建つことを食い止めることはできていない。タワーマンションなどで人口が増えることを、区としてどう考えていくのか。 タワー（マンション）か、そうではないか、二者択一ではないはず。つくり方によってはマンションにコミュニティのための施設を入れることもできる。 新しく地域に入った住民に、地域コミュニティへの参加を促すことも必要。 マンションの1階にかならずコミュニケーションセンター等の地域交流の場所を設けるなどして、そこにお年寄りが集うことから始まるとよい。
文化・産業・観光	朝顔市は、江戸の商業文化の先駆けであり、海外からの注目度も高い。現行計画の整備方針からは、文化がないように見える。 産業のことがまったく書いていない。入谷南は材木屋が集まっている。千束町などきめ細かく取り上げてほしい。 坂本小跡地は、建物として残す価値も検討したほうがよいのではないかと。 復興小学校が台東区には残っているということで、逆に資源になる。跡地にはしてはいけないという見方がある。
花とみどり・環境	お祭りの3日間だけ業者が来るだけで、ふだん縁のものがなく地元の意識が少ない。神社のお祭りとは性格が違うという実態がある。



■根岸・入谷地域まちづくり方針（全文案）

文人墨客ゆかりの風情を感じながら暮らせるまち

（１）閑静で落ち着いた生活圏とそれを支える地域拠点の形成

①閑静で落ち着いた生活圏の形成

- 地域固有の歴史ある文化資源を活かしながら、閑静で落ち着いた生活圏を形成する。
- 住宅地では、みどりや路地空間の残る低層住宅主体の土地利用を図る。
- 公開空地、生垣、駐車場の緑化等による身近に感じるみどりの創出、歴史や伝統等の文化を活かした街並みの整備等により、質の高い生活空間を形成する。

②コミュニティの核となる地域拠点の形成

- 旧坂本小学校跡地の活用により、多様なコミュニティを支え、交流や地域のにぎわいを醸成する地域拠点を形成する。

（２）文人墨客ゆかりの地を巡る歩行者空間の整備とみどりの創出

①歩行者空間の整備とみどりの創出

- ポケットパーク等の整備、サインの設置、地域特徴を活かした植栽等により、地域内に点在する寺社や文化資源等を巡る歩行者ネットワークを形成する。
- 柳通りの古い街並みを保全するとともに、東西方向の歩行者の軸を形成する。

（３）住宅の不燃化、耐震化の促進とおちついた風情の維持を両立する災害に強いまちの形成

①地域の防災性向上

- 路地空間など趣ある街並みを活かしながら、耐震性の向上、延焼の防止、狭あい道路の拡幅、行き止まり道路の解消等により地域全体の防災性の向上を図る。
- 広域避難場所である谷中霊園、上野公園への避難経路となる幹線道路沿いにおける耐震化を進めるとともに、JRを横断する跨線橋の耐震性を確保する。

②治水対策の推進

- 入谷、竜泉、三ノ輪の下水道管再構築化を図り、集中豪雨に耐える排水機能を整え、水害対策の更なる充実を図る。

（４）上野台地崖線を活かした鶯谷駅周辺の整備

①鶯谷駅の駅前空間整備

- 地区計画や再開発等の面的整備の都市計画手法を通じて、地域の玄関口にふさわしい駅前空間を整備する。

②鶯谷駅周辺の環境整備

- 上野台地とまち中を結ぶ歩行者の移動を改善するため、バリアフリーのまちづくりをより一層進めるとともに、鶯谷駅周辺と上野公園との一体的な整備を進める。
- 上野台地の斜面の緑化を推進するとともに、自然を背景にした街並みの景観形成のルールづくりを進める。

（５）歴史・文化・商業を活かした入谷駅周辺、三ノ輪駅周辺の整備

①入谷駅周辺の整備

- 入谷駅周辺は、入谷駅のバリアフリーを推進し、道路横断施設の充実等により、歩行者の道路横断の

安全性やまちの一体性を確保する

- 祭事が開催される名所・旧跡を巡る歩行者ネットワークを整備する。

②三ノ輪駅周辺の整備

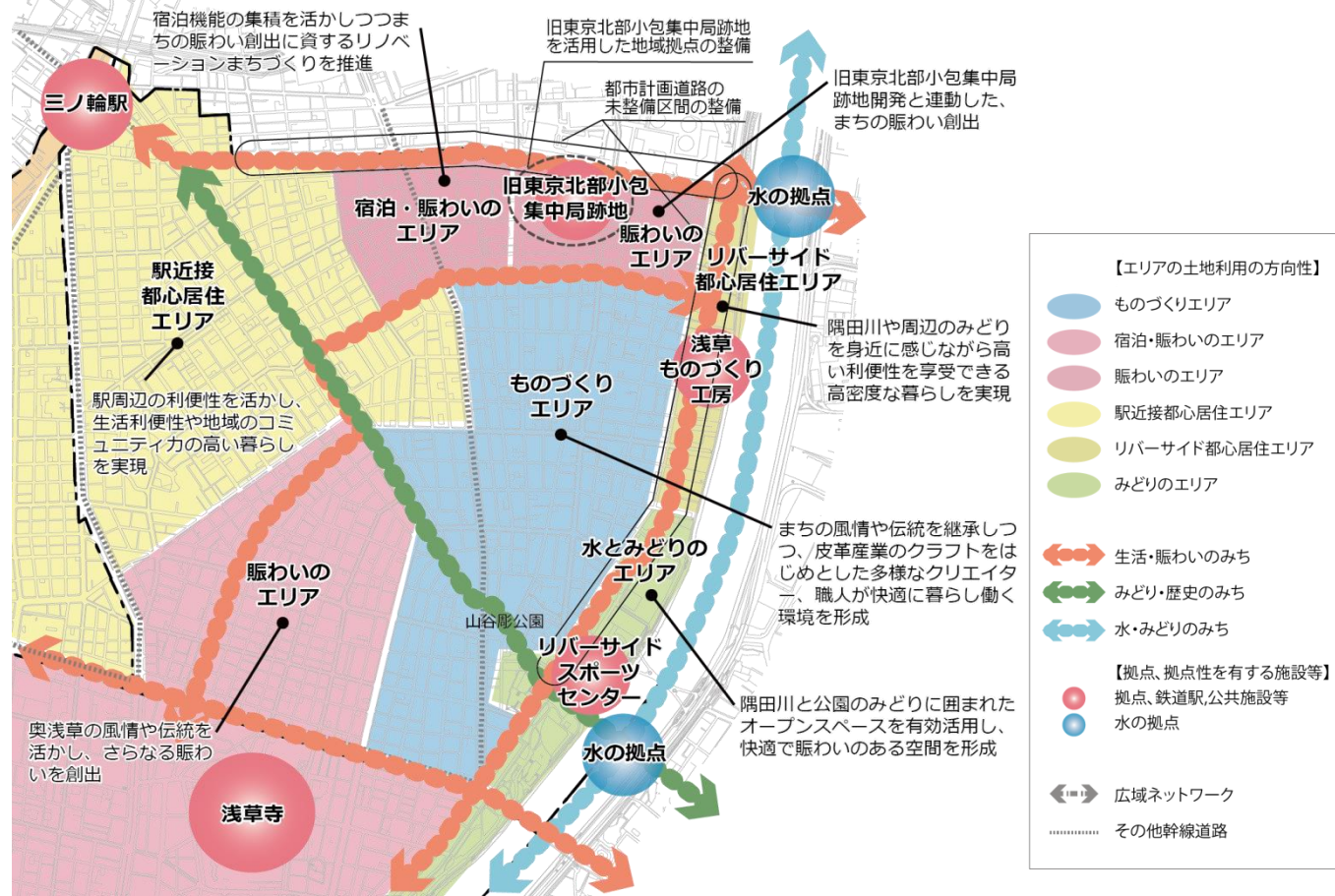
- 三ノ輪駅のバリアフリーを推進する。
- 生活利便施設等を誘導し、生活の利便性向上を図る。

③主要幹線道路沿いの整備

- 昭和通り、言問通り、明治通り沿いでは、建物の不燃化、耐震化を推進するとともに、地区計画等による沿道街区の背後の街区に配慮した建物の建て方を誘導する。
- 沿道環境、緑化、景観に配慮した沿道整備を推進する。

5 北部地域

まちづくり方針図

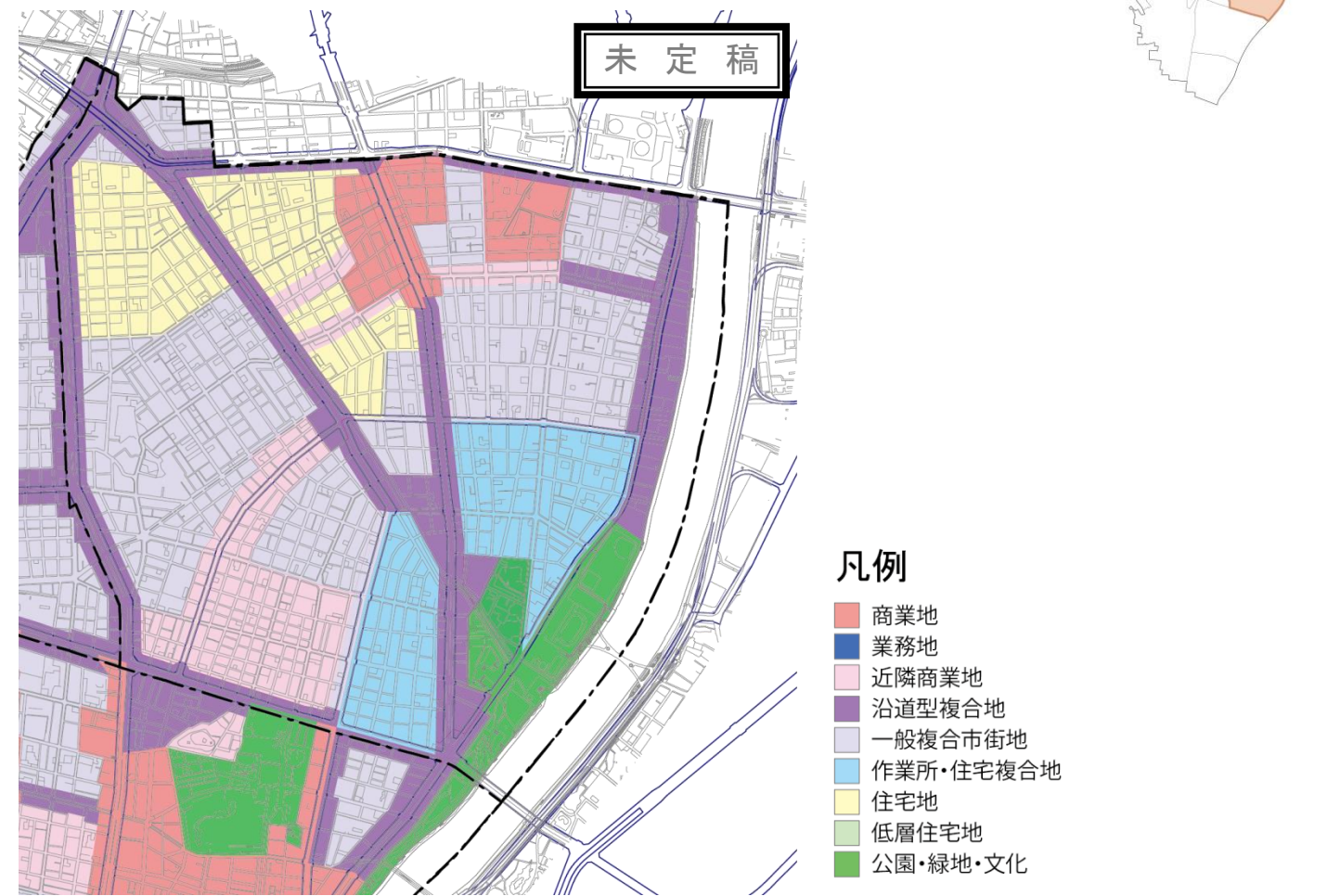


人びとが交流し住み働き続けられる便利なまち

地域別まちづくり方針の骨子

(1) 地域全体の公共交通の利便性や生活利便性の向上に資する拠点整備	①地域拠点の形成 ②新たな公共交通の整備
(2) 地場産業を含む産業の強化及びイメージブランディング	①産業強化やイメージブランディング等と連携したまちづくりの推進 ②リノベーションまちづくりの推進
(3) 地域コミュニティを大切にする住みやすい生活圏の形成	①安全で快適で住みやすい生活圏の形成 ②地域コミュニティの形成 ③緑化の推進とオープンスペースの整備
(4) 定住人口を確保する質の高い多様な住宅の確保	①ファミリー層を主体とした良質な住宅の供給 ②職と住が融合した住まいの誘導
(5) 地域の防災性の向上	①災害に強いまちづくりの推進 ②治水対策の推進
(6) 浅草との連続性を確保する水とみどりに囲まれた回廊づくり	①隅田川の親水性の向上 ②水とみどりに囲まれた回廊づくりの推進

土地利用方針図



これまでの策定委員会での主な意見

分野	意見
土地利用	簡易宿泊所の転換なども含めて、広域でエリアマネジメントができるといい。
生活・住宅	高層マンションの誘導もこの地域なら似合っている。 中小規模で下に店舗が入っていてアーティストのアトリエなどとして活用される建物の方が似合う。まちの中で人が見えるスケールで取り組んだ方がいい。医療支援や若者定住にも取り組むなど、今のまちなみを活かしつつ、デザインズマンションなどで新しくしていったらどうか。 北部地域は北と南の状況が異なる。土手通りの南は利便性が良くマンション化が進んでおり、小さな商店の衰退が課題。一方、北側はマンション需要が少なく、若い人を巻き込んだ新しい企画、リノベーションまちづくりに適している。若者も入れて小さなアクションを起こすことが重要。
文化・産業・観光	山谷地域のイメージ戦略をつくり、地場産業のブランド化を図るなどして、イメージを改善したらどうか。 山谷地域は時代の変わり目に立っている。皮革産業も衰退するかもしれない。変わり目の時に中身をどうするか地元で丁寧に議論する必要がある。 交通網整備だけではなく、地場産業や新しい産業など、産業を育成する必要がある。 他が真似できない技術を有する地場産業は強い。まちの活性化にもつながる。地場産業も従来のままで生き残れないため、グレードアップする必要がある。そのためにはまちのプロデュースも重要である。基盤になる産業については都市マスでも記載すべきである。
防災	北部地域は地域危険度が高く、建物の更新速度が遅いため、取り残されて危険性高いままになる恐れがある。ここ10年くらいで荒川区は更新に成功した。北部地域についても、都市計画としていいインパクトを与えれば、変えられるいいチャンスになる。この先10年がキーとなる。どこかにきちんとそのことを打ち出した方がいい。
道路・交通	交通機関が不足している分、都電荒川線の延伸など大胆な計画も描ける。 南千住方面への銀座線延伸は台東区のみならず、荒川区にとってもアクセス向上に一定の効果がある。 交通網が変わるとこの地域も劇的に変わる可能性がある。都電またはLRTで小包集中局跡地～浅草～上野を結んで、小包集中局跡地をP&Rの拠点にすることも考えられる。

■北部地域まちづくり方針（全文案）

人びとが交流し住み働き続けられる便利なまち



（１）地域全体の公共交通の利便性や生活利便性の向上に資する拠点整備

①地域拠点の形成

○旧東京北部小包集中局跡地を活用して官民連携により賑わいを創出するとともに、生活拠点を形成する。

②新たな公共交通機関の整備

○北部地域の交通利便性の向上に資する新たな公共交通機関について検討し、整備を推進する。

（２）地場産業を含む産業の強化及びイメージブランディング

①産業強化やイメージブランディング等と連携したまちづくりの推進

- 皮革産業等の地場産業については、業界と連携して時代のニーズに合った企画・販売促進、人材育成、イメージブランディング等の施策と連携したまちづくりを進め、地域の活力向上を図る。
- 新たな産業や起業を支える場として、「浅草ものづくり工房」等を有効活用する。
- 山谷地域については、これまでの環境衛生等の地域環境改善対策や就労対策、福祉・保健衛生対策等について、東京都等と連携して総合的に推進する。

②防災生向上を前提としたリノベーションまちづくりの推進

- アトリエ店舗への改修などによるリノベーションまちづくりを推進する。
- 労働者の減少・高齢化、外国人観光客等の宿泊需要の増加等を踏まえ、老朽宿泊施設の更新やリノベーションを推進する。

（３）地域コミュニティを大切にする住みやすい生活圏の形成

①安全で快適で住みやすい生活圏の形成

- 安全で快適に住み続けられる生活圏を形成する。
- 商店街の活性化、生活利便施設の立地誘導により、生活利便性の向上を図る。
- 都市計画道路の未整備区間の整備を推進し、自動車や自転車、歩行者が分離された安全で快適な歩行空間を確保する。

②地域コミュニティの形成

○地域住民のまちづくりへの積極的な活動を支援し、地域コミュニティの活性化を図るとともに、誇りと愛着がもてる地域づくりを進める。

③緑化の推進とオープンスペースの整備

- 今戸周辺では、寺社等のみどりを保全し、民地の緑化を推進するとともに、点在する地藏や石碑等の周辺をポケットパークとして整備する。
- 建物の建替え等にあわせてオープンスペースを整備し、みどりに囲まれた空間を創出する。

（４）定住人口を確保する質の高い多様な住宅の確保

①ファミリー層を主体とした良質な住宅の供給

○土手通り、吉野通り、橋場通り、明治通り等の主要な道路沿いでは、中・高層建築物への更新にあわせた、ファミリー層を主体とする質の高い住宅の供給を推進する。

②職と住が融合した住まいの誘導

○作業所と住宅が複合する地区では、建物の更新にあわせて、職と住が融合した住まいを誘導する。

（５）地域の防災性の向上

①災害に強いまちづくりの推進

- 建物の不燃化・耐震化を促進する。
- 狭あい道路の拡幅、行き止まり道路の解消を図る。

②治水対策の推進

○竜泉、三ノ輪の下水道管再構築化を図り、集中豪雨に耐える排水機能を整え、水害の未然防止を図る。

（６）浅草との連続性を確保する水とみどりに囲まれた回廊づくり

①隅田川の親水性の向上

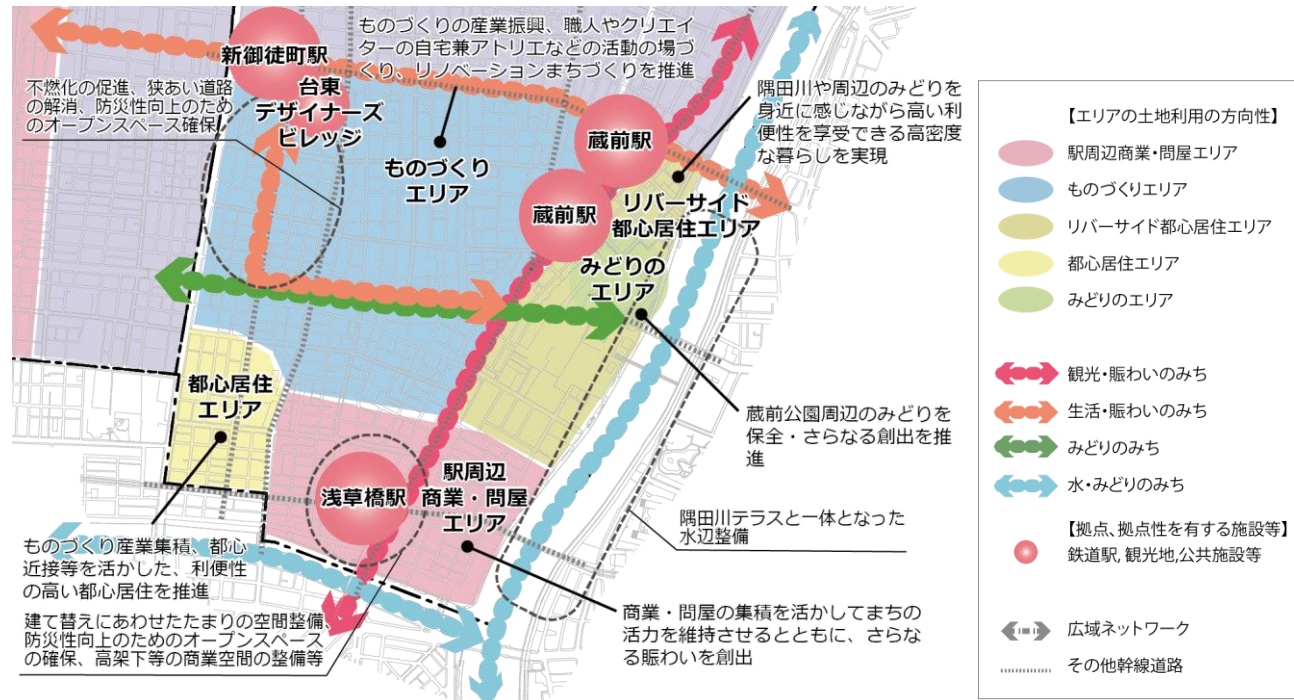
- まち中から開放感ある隅田川の眺めを確保するとともに、隅田川による浅草地域との連続性を確保することにより、親水性を向上する。
- 隅田川のスーパー堤防を整備し、防災性・親水性の強化、土地の有効活用を図る。

②水とみどりに囲まれた回廊づくりの推進

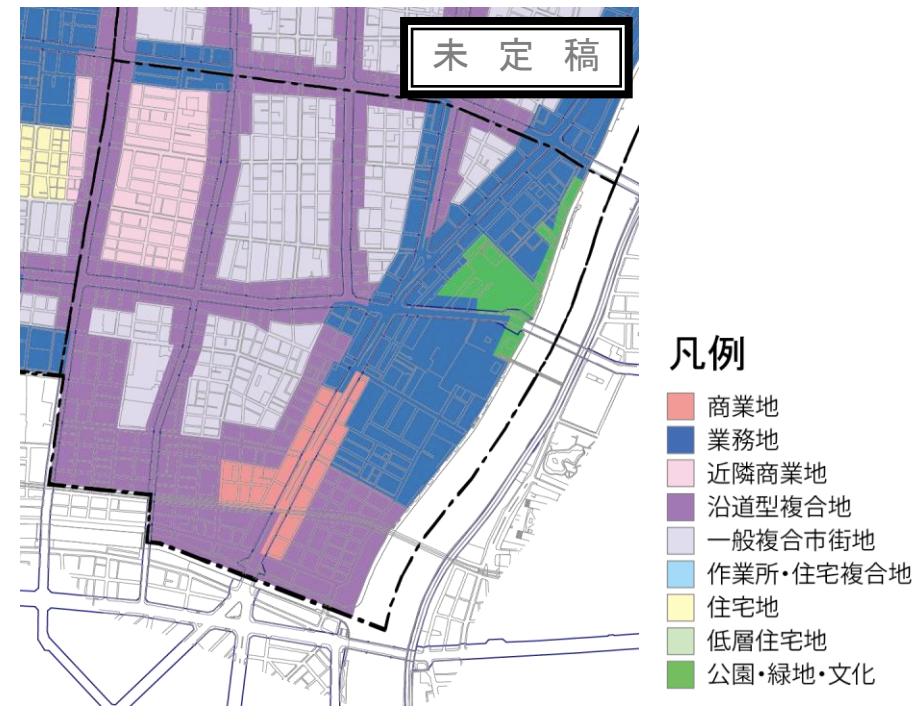
- 隅田川、公園、寺社、まちなかの風情ある地区、商店街、住宅地等を、歴史や伝統等の文化、水・みどりに包まれた歩行者空間により結び、地域の魅力向上、賑わいの創出を図る。
- 駐車・駐輪スペース、荷捌きスペース等の確保等の商業環境の整備を行い、浅草地域から北部地域への回遊の軸となる快適な歩行者空間を形成する。
- 地域の価値を高める公園・オープンスペースの創出により、潤いある空間の形成を図る。

6 南部地域

■まちづくり方針方針図



■土地利用方針図



■これまでの策定委員会での主な意見

分野	意見
土地利用	更新の変わり時にあり、ここ10年で一気に変わる可能性がある。変化の前にまちの方向性を定める必要がある。蔵前橋の北エリアの集合住宅着工のトレンドが知りたい。
	浅草と浅草橋の間の川沿いに新しい店が増えていると聞いたが、その効果を波及しようとしても公共施設が障害になっている。
生活・住宅	新住民と旧住民の共存が課題である。
	マンションは増えたが、ワンルームが主体であるため、若者の一人暮らしが多い。商店街がコンビニに負けて衰退の傾向にある。 周辺の大きな道路沿いはマンションに建て替わるが、中のエリアは建て替えが進まない。
花とみどり・環境	この地域の大きな特徴は水辺である。蔵前周辺は隅田川に近いにも関わらず、公共施設が集積している関係上、身近に川を感じる事ができない。神田川も距離は近いのに身近ではない。大きな方針として、水とまちの関係付けること（アクセス向上など）ができるといい。
	公園面積を積極的に増やす必要がある。ワンルームマンションと問屋街が多く、まちなかの緑地を誘導する要因がない。 共同化の際に公園を組み合わせたり、2項道路の部分的空地的に活用できたりすることが考えられる。
防災	一部地域は戦災被害がないため、狭小なところに長屋が残っている課題がある。
	建築年数が古く、地域の更新がこの地域の課題となる。 建て替えを迎える建物が多く、今後も住宅供給は増えると予想されているが敷地が狭い。共同化を推進したい。
道路・交通	浅草～秋葉原間（AAライン）で定期便が出せると面白い展開になると思う。

新しい職住近接スタイルを実現し、次なる産業や価値観を生み育てるまち

■地域別まちづくり方針の骨子

(1) 産業構造の変化に対応した土地利用の推進	①産業振興とリノベーションまちづくりの推進
(2) 回遊性の向上と新たな賑わいの創出	①駅周辺の回遊性向上と賑わいの創出 ②地域全体における新たな賑わいの創出
(3) 建物の耐震化・不燃化の促進	①地域の防災性向上
(4) 居住環境の維持と商店街の再生	①居住環境の維持 ②地域のニーズに対応した商店街の再生
(5) 水とみどり、歴史と文化を感じる地域づくり	①水とみどりの活用した水辺空間の形成 ②みどりや歴史と文化を感じる地域づくりの推進

■南部地域まちづくり方針（全文案）

新しい職住近接スタイルを実現し、次なる産業や価値観を生み育てるまち



（１）産業構造の変化に対応した土地利用の推進

①産業振興とリノベーションまちづくりの推進

- 併用住宅のリニューアル等により、若い職人、デザイナー等の活動の場として活用し、産業の集積を図ることにより、地域の活性化を図る。
- まちの佇まいを残しながら、既存ストックを活用して事務所ビルからの防災生の向上を前提としたリノベーションまちづくりを進め、職と住が調和した住まいへの更新を誘導する。
- 製造業者・製造小売業者が来訪者に「ものづくり」のすばらしさをアピールし、製品の販売促進を図るために、台東デザイナーズビレッジを継続活用するとともに、店舗・作業所等の改修やアトリエ化に対する支援を行い、「ものづくり」のまちの魅力を発信する。

（２）回遊性の向上と新たな賑わいの創出

①駅周辺の回遊性向上と賑わいの創出

- 浅草橋駅周辺では、周辺の建物の建替えにあわせて、空間を整備するとともに、輻輳する交通環境の改善、高架下等の空間整備、駅前の賑わいの演出等を推進する。
- 蔵前駅周辺では、乗り換えの利便性を向上するための案内標識の設置やバリアフリー化、問屋が集積するまちの個性を活かした景観形成等により、楽しく歩ける空間づくりを推進する。
- 新御徒町駅周辺では、歩行者動線に対応した歩道の拡幅等による歩車分離、歩道上の屋外広告物等の規制により、歩行者の安全性・快適性を確保する。

②地域全体における新たな賑わいの創出

- 問屋街、おかず横丁等と周辺地域との回遊性を向上し、景観の統一、まちの連続性の確保を図る。
- 地場産業や地域のコミュニティなどを活かし、地域全体における新たな賑わいの創出を図る。

（３）建物の耐震化・不燃化の促進

①地域の防災性向上

- 木造建物が密集する地区では、地区計画等の制度手法や建物の共同化等により、不燃化の促進、狭あい道路の解消、オープンスペースの確保等を進め、地域の防災性を向上する。
- 中小規模の事務所ビルは、安全性向上を前提としたリノベーション等によりストックの活用を図るとともに、耐震性の向上を図り、災害時における安全性を確保する。

（４）居住環境の維持と商店街の再生

①居住環境の維持

- 住宅と商業・業務の併用住宅等の複合的土地利用により、生活利便性の高い職住近接の住環境を形成する。
- 蔵前橋通り、春日通り等の東西方向の幹線道路の北側沿道では、沿道街区の背後の街区の日照など、居住環境を配慮した、中層または中・高層中心の土地利用を誘導する。
- 公園・オープンスペース等の整備により、潤いある居住空間の形成を図る。
- 地域コミュニティの形成を図り、交流を促進する。

②地域のニーズに対応した商店街の再生

- 共同住宅の建設により増加等による多様化したニーズに対応した、既存商店街の活性化を進める。

- 商店街の建物の改築や建替えを行う際には、低層部への商店の配置等を誘導し、商店街の連続性を確保する。

（５）水とみどり、歴史と文化を感じる地域づくり

①水とみどりの活用した水辺空間の形成

- 隅田川では、川からの眺望の確保に配慮し、川と調和した川沿いの建物の景観形成を図るとともに、隅田川テラスと一体となった水辺整備を進める。
- 神田川では、護岸及び川沿いの緑化、舟運の活用、歩行者空間の確保等を推進するとともに、川と川沿いの建物が調和した眺望を確保し、都市的空間の中で自然を感じる景観形成を進める。
- 隅田川のスーパー堤防を整備し、防災性・親水性の強化、土地の有効活用を図る。

②みどりや歴史と文化を感じる地域づくりの推進

- 建物の壁面緑化、屋上緑化等により、みどりに囲まれた地域づくりを進める。
- 祭りが行われる道路等は、その舞台にふさわしい景観形成に努め、日常から祭りを感じる空間づくりを推進する。